

質問者氏名 小 沢 あ い
目 安 時 間 3 0 分

1 区政情報の突き合わせについて

- (1) 区民への情報提供のあり方について区の考えを伺う。
 - (2) 広報施策の工夫について区の考えを伺う。
- 2 物品の購入について
- (1) 規模を大きくすることによって得られる効果や利益の考え方について区の考えを伺う。
 - (2) 契約に関する仕様の工夫について区の考えを伺う。
- 3 庁有車のガソリン購入について
- ガソリンの購入方法について伺う。
- 4 災害時の防災拠点運営について
- (1) 避難所に関する周知について区の考えを伺う。
 - (2) 災害時の区職員の関与について区の考えを伺う。

質問者氏名 鴨志田 リ エ

目安時間 30分

1 目黒区美術館の将来展望について

「めぐろ芸術文化振興プラン」で目黒区美術館は区有施設の見直し計画を踏まえ、必要な維持管理を行い区の宝として活用を図る、としているが、具体的な将来展望は描かれていない。

また、本年4月に山本幸三地方創生相が地方創生に関するセミナーの中で、観光振興をめぐり「一番のがんは文化学芸員と言われる人たちだ。観光マインドが全くない。一掃しなければ駄目だ」と発言し、後に撤回に追い込まれた。この発言を機に博物館や美術館の表舞台にはなかなか出ない、縁の下の力持ちの学芸員が注目を浴びた。

本年30周年を迎えた目黒区美術館を開館当初から支えてきた学芸員2名は昨年定年を迎え、現在は再任用の立場で美術館を下支えしているが、後進の学芸員が育っていない状況である。美術館の企画展には準備に3年を要する場合もあり、学芸員を補充し現行の形を存続させるか、又は他の展望を模索するか、早急な検討が必要と考える。目黒区美術館の将来展望を問う。

2 教員の過重労働について

公立小・中学校教員の残業時間は過労死ラインとされる月80時間を

超える割合が小学校教員の33.5%、中学校教員の57.7%との文部科学省の調査結果が出た。日常業務は多岐にわたり、部活動の指導で休日出勤も多く、学校現場はパンク寸前との声がある。教員の長時間労働は子どもたちの教育にも深刻な影響を及ぼす。

- (1) 教員の過重労働に対しどのように取り組んでいるか。
- (2) 今後、教員の過重労働にどのような対策を講じるか。
- (3) 休職中の公立小・中学校教員の人数と近年の傾向、休職理由の上位3点を問う。また、休職教員にどう対応していくか。

質問者氏名 広 吉 敦 子

目 安 時 間 30分

1 コミュニティ施策について

今後、住区センターは子育てひろば、多世代交流の場となるコミュニティカフェ、子ども食堂等、様々な取り組みが展開される可能性を持っています。そんな取り組みを推進するのは他でもなく地域政策調査課ではないでしょうか。地区の情報を把握するために5地区に担当者を配置する必要があります。担当者は兼務でもいいと思います。

そこで質問します。

- (1) 昨年は、意見交換会や「地域コミュニティ検討会」が行われ、コミュニティの在り方から住区住民会議の意義まで、広く議論されました。現在、目黒区はコミュニティ形成の進め方に関する素案を作成中だと思いますが、情報の共有、課題解決に向けてはチームで進めていくことが重要です。地域の課題を掘り起こし、解決に結びつけるには5地区の地区サービス事務所と包括支援センターなど、地区センター内の連携によりセンター機能を充実させる必要があると思いますが、いかがでしょうか。
- (2) 住区センターは公の施設であり、子どもも高齢者も歩いて行かれる身近な地域にあるため、区民に広く利用されることが望ましいと思います。住区センター設置の歴史はあるものの、まだ、住区センターを知らない人がいます。住区センターの活用の仕方を検討するためのアイデア公募を行い、市民参画を広く促す機会とすべきだと思いますが、

いかがでしょうか。

- (3) 横浜市ではオープンガーデンという取り組みが2013年から始まっています。また、文京区では、町会と地区センターと社会福祉協議会が連携し、空き家を活用した多世代の交流場所が実現しています。以上、事例をあげましたが、時代の急速な流れに伴い地域の課題が次々と表面化し、今までの住区住民会議の体制では対応が追いつかない状況になってきています。そこで、住区住民会議は各課題を得意とするNPO等他の活動団体と連携して課題解決に取り組む必要があると思いますが、いかがでしょうか。

2 八ヶ岳林間学園の活用法について

小・中学生だけでなく一般にも開放されている八ヶ岳林間学園ですが、そのことはあまり知られていません。昨年冬、この施設を区民利用した実績はありませんでした。今注目の北杜市に位置し、素晴らしい環境にめぐまれたこの施設を遊ばせておくのはもったいないと思います。ただ交通の便が悪く、北杜市内で野外活動をしたくても移動手段がありません。その辺を工夫することで、学校利用をベースに家族利用、団体利用へと発展させる取り組みを期待します。

- (1) この施設を大人の生涯学習や大学のゼミ合宿でも使用できるよう充実させてはいかがでしょうか。また、現在最寄りの駅からの交通が不便で市内の移動手段もありません。区内青少年団体、子育て関連グループがもっと利用しやすいようにサポート体制を整えてはいかがでしょうか。

- (2) 区民利用が少ない理由として予約の不便さが指摘されています。10日前までに教育委員会まで出向き申請をしないといけない現在の状況を見直し、時代に合わせてネット予約できるようにし、また参加を促すためにHP情報を充実させてはいかがでしょうか。

3 羽田増便計画における問題について

国は国際競争の強化、訪日外国人の増加、日本全国の地域活性化、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの円滑な開催に向けて、首都圏空港をさらなる離着陸の増加が必要と判断し、羽田空港の機能強化を検討しています。その中、密集市街地を飛行機が超低空で飛ぶ計画案に住民の間で騒音、落下物事故、墜落事故等の被害を危惧する声为上

がっています。

そこで質問します。

国交省はオープンハウス型の説明会を各地域で行いましたが、十分伝わっていません。「教室型」の説明会を行うように国交省に強く求めるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

質問者氏名 西 村 ち ほ

目 安 時 間 4 5 分

1. 図書館蔵書について

- (1) 図書館が所蔵する学校史や記念誌等の一部が切り取られる被害が、各地で相次いで発覚した。学校史や地域の歴史資料など、貴重かつ希少な資料については特に、閲覧の便利さと劣化や損傷を防ぐ保全の両立を図ることが求められる。一部資料をデジタル化して閲覧できるサービスについて見解を伺う。
- (2) 図書の寄贈について目黒区立図書館では、「出版されてから3年以内」など、6項目の受付基準を設けている。受付基準に沿わない書籍が含まれる場合や、古くても専門的価値のある多量の寄附の申し出があった場合には、どのように対応するのか。また、図書館での貸し出し頻度とその図書自体の価値や重要度は一致しないと考えるが、限りある書架スペースの中での蔵書の廃棄について、そのプロセスと判断について伺う。

2 喫煙所の整備について

- (1) 区内に5カ所あった指定喫煙所のうち、私有地を利用させていただいていた1件が廃止された。今後も近隣の声の高まりなどから、現在民間で私有地に設置されている喫煙所の閉鎖が進むことも考えられ、分煙環境整備に関する行政の役割はますます高まっている。不足する喫煙所の確保と、加えて煙が広がらないような改善を進めるべきだがいかがか。
- (2) 近隣の意向やスペース確保の問題から喫煙所の新設が難しい中、渋谷区では一定規模以上の建築物への喫煙施設の設置義務付け、千代田区や港区では屋内型喫煙所設置への助成などを行っている。目黒区の

考えはいかがか。

3 部活動指導員について

外部人材が中学や高校の部活動を単独でも指導・引率できる部活動指導員が、4月から制度化された。これまでも関係者の協力や紹介などにより外部指導員による部活動の指導補助は行われているが、制度化されての今後の展開と、民間への外部委託など人材確保についての見解を伺う。

質問者氏名 佐藤 ゆたか

目安時間 40分

1 防火のさらなる向上について

震災以外でも東京消防庁管内では年間4,000件近く火災が起きています。その主な出火原因は「放火」、「たばこ」、「ガステーブル」、「たき火」、「火遊び」等となっています。

防火対応をさらに高めるため、以下質問いたします。

- (1) 近年の住宅火災では、電気設備機器からの火災が増加しており、コンセントの差し込みでホコリによるトラッキング現象、照明器具のLED、ダウンライト等、一度取り付けるとなかなか点検の機会がありません。コンセントや器具を点検するなどの周知が必要と考えますが、所見を伺います。
- (2) 東京消防庁の平成28年版「火災の実態」では、初期消火の重要性が書かれており、初期消火を実施した火災は1,040件、初期消火成功率は8割近く、また初期消火に失敗した245件の理由については「発見が遅れた」、「気が動転して消火できなかった」、「他人に知らせに行く間に拡大した」、「消火器が不足した」とありました。被害を最小限に食い止めるには、初期消火力のさらなる向上が必要と考えますが、目黒区の考えをお聞きします。

2 安心安全な公園利用について

園庭がない保育園では公園利用の頻度が高く、毎日利用している園もあります。また幼児をお連れの公園利用者の中で、幼児用の遊具が不足しているため、別の公園に移動するなどしています。

小学生は広場の利用が増え、一方、のんびり安らげ休息できる公園にとの声も依然多く、ジョギング、ストレッチ、軽スポーツ、ボール遊びができるよう要望する声も増えてきております。区民の求める公園像がますます多様化してきております。幼児でも安心して遊べる公園、小規模公園でも特徴的な遊具の設置や、複数の公園を利用別に使い分ける必要があると考えますが、所見を伺います。

3 目黒区内の水路敷きについて

水路敷きには崖の下、住宅と住宅の間、ビルとビルの間、車両が通行できる広さから人が一人通れるところ、塩ビパイプが通っているところもあります。また漏水や物が置かれたりしたところもあり、災害が起きた時には避難経路になりうるため定期的なパトロールや点検が必要と考えますが、所見を伺います。

質問者氏名 鈴木 まさし

目安時間 60分

1 民間事業者による集合住宅建築における保育施設の設置について

民間事業者による集合住宅の建築によって、新たな保育需要が発生することから民間事業者へ保育施設の設置の協力を求める必要がある。目黒区では、住環境の観点の施策のひとつとして、民間事業者が集合住宅を建設するに当たり、協議の義務化の検討を進めているようだが、先行して取り組んでいる自治体では、取り組みが進んでいないケースもある。本区では具体的にどのように取り組んでいくのか考え方を伺う。

2 空き家等実態調査の結果を踏まえた今後の具体的な取り組みについて

目黒区では、平成28年7月から空き家対策の検討に向けた現状把握を目的として、区内の全ての建物を対象にした空き家等実態調査を行い、調査結果を取りまとめた。さらに、庁内に空家対策調整係を設けて対応窓口を一本化し、迅速な区民対応や情報共有に取り組んだ。

(1) 今回の空き家等実態調査の結果をどのように捉え、また現状の課題を把握したのか伺う。

(2) 今後の具体的な取り組みとして、目黒区の空き家対策計画を策定し、利活用については全庁的に連携することについて伺う。

3 区内の回遊性向上に向けた取り組みについて

目黒区まち・ひと・しごと総合戦略の基本目標のひとつである「新たなにぎわいの創出と多様な人と人との交流」の実現のためには、今後も増え続ける区内観光客の回遊性向上が急務である。

(1) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、区内を訪れる多くの国内外の観光客に対応するための交通アクセスについて取り組みを伺う。

(2) 目黒区の地形は、坂の多い地形であることが特徴となる。電動自転車を活用した自転車シェアリング事業について方針を伺う。

4 女性の防災力向上による安全・安心なまちづくりについて

目黒区では「安全・安心なまちづくり」を緊急な重要課題とし、地域防災力の向上を目的としたハード対策、自主防災組織の防災力向上を目的としたソフト対策に取り組んでいる。今後は、女性の防災力向上に関する取り組みが求められているが方針を伺う。また、避難所運営マニュアルの附属として小冊子を作成する取り組み、めぐろ区報で女性向けにPRする取り組みについて伺う。

以 上